

令和8年2月6日
第2回立川市いのち支える
自殺総合対策連絡協議会
資料3

令和8年1月15日
多摩立川保健所
市町村連携課

「自殺未遂者支援のための地域実務者研修会」 の実施状況について

【抜粋】

「自殺未遂者支援のための地域実務者研修会」実施概要

テーマ 自殺未遂者支援と連携のための実践 ～地域でつながる！子どもから大人まで～

実施主体 災害医療センター※¹・立川市・多摩立川保健所※²の共催で実施予定
※¹ 令和7年度自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業
※² 令和7年度課題別地域保健医療推進プラン「若者の自殺対策を推進するためのネットワークの構築事業」

対象者 自殺対策や若者支援にかかわる地域関係者（医療機関、教育機関（中学・高校教員等）、行政機関（市・児童相談所等）、社会福祉協議会、NPO法人等）

日時 令和7年12月12日（金）午後1時30分から午後5時まで

場所 災害医療センター4階 地域医療研修センター

内容

- 講義1 自殺の現状とリスクを見逃さないための基礎知識
講師：張 賢徳 医師（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所所長）
- 講義2 地域支援と多職種連携の実践
講師：臼杵 理人 医師（災害医療センター救急救命科医長）
- 演習・グループワーク
 - リスク評価演習
 - 事例を用いたグループワーク

研修会参加者について

所属	人数	備考
病院	6	
クリニック	1	
中学校	3	
高校	13	全日3、定時1、通信9
市役所	9	
社会福祉協議会	2	
NPO法人	6	
児童相談所	2	
保健所	3	
地域活動支援センター	1	
他県	1	
合計	47	

職種	人数（複数計上あり）
医師	1
看護師	4
教員	13
スクールカウンセラー	2
スクールソーシャルワーカー	1
保健師	9
精神保健福祉士	6
その他（社会福祉士、公認心理師等）	15
合計	51

※その他、見学者（保健所職員等） 5名

講義 1 自殺の現状とリスクを見逃さないための基礎知識

講師：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
張 賢徳 所長

自殺の現状

日本の自殺者数・自殺死亡率の推移

小中高生の自殺者数の推移

自殺予防対策

自殺の実態調査「心理学的剖検」

自殺プロセスと自殺予防の3つのアプローチ

自殺リスク因子と自殺未遂者ケアの重要性

希死念慮・自傷行為への対応

講義 2 地域支援と多職種連携の実践・スクリーニング演習

講師：国立病院機構災害医療センター救命救急科
白杵 理人先生

精神障害、精神科的対応、心理社会的介入の方法について

自殺のリスクとなる精神障害を知る

精神科医療が得意なこと・限界

自殺行動に伴う心理プロセス

自殺リスクのスクリーニング

家族への対応

CASEの提案

地域の社会資源を知っておく

多職種連携による医療機関・自治体等への紹介・連携・情報提供の方法

災害医療センターの連携実績

現状でできる実践として

ポストベンション・遺族への心のケアについて

災害医療センターの自傷・自殺企図の転機の推移

自死遺族の感情

ポストベンションと自殺対策

支援者のための支援

講義の様子



グループワークについて

司会進行：国立病院機構災害医療センター救命救急科
臼杵 理人先生

実施規模

1 グループ5～8名×7グループ
※各グループにファシリテーターを1名ずつ配置
(災害医療センター、立川市、多摩立川保健所職員)

実施方法

架空の2事例（ケース1「壮年男性」・ケース2「高校生女子」）それぞれについて、以下の手順でグループワークを実施。

1. 救急救命センター搬送時の情報を開示
2. どのような情報を確認したいかをグループで意見交換し、ホワイトボードにまとめる
3. 発表（3グループ）
4. 入院後に確認できた情報を開示
5. 今後の支援に必要な観点と連携機関についてグループで意見交換し、ホワイトボードにまとめる
6. 発表（4グループ）

グループワークの様子

